



文豪ゲーテが生まれた街
 金祝・ドイツの旅⑥

フランクフルトの街

もある。

にはいろんな顔がある。ユーロを統括する欧州中央銀行本店などがある金融の街、国際見本市が開催される商業の街、中世の面影が色濃く残る街、そして文豪ゲーテが生まれた街で

旧市街の広場にはゲーテの銅像が建てられ、ドイツ有数のブランドストリートには彼の名前がついている。ゲーテは一七四九年、フランクフルトの裕福な家の長男として生

まれる。その生家は今たことでもわかるように昔のままの姿で残っている。正確に言うとう、第二次世界大戦でかなりの部分は破壊されたが、家具調度品は疎開

している。机の前の壁には恋人に送ったゲーテの影絵と恋人のものが飾っている。代表作「若きウエルテルの悩み」はこの机で二十五歳の時に書かれた。

若いころ読んで、スローリーすら忘れてしまったので、市の図書館に出かけ、改めて「若きウエルテルの悩み」などを目を通す。友人の婚約者や人妻と自然感情

彼の最後の言葉「もっと光を!!」神に言ったのだろうか? 近くの洗礼を受けたカタリーナ教会を訪れる。

《巡礼心得メモ》

ゲーテの言葉から。

結婚は目的地ではない。人として成熟するチャンスを生かせるかは本人次第だ。



ゲーテの生家 屋根裏部屋を入れると5階建て



4階にゲーテの部屋があった

して無口ッパで知られる事で、ようになった。失戦後、恋がゲーテ文学のエネルギーになったという評論家もいるほどで、八十二歳で帰天するまで八人の女性と恋をし、最晩年の恋は八十歳の時だとい



洗礼を受けたプロテスタントの教会

のままだに恋をし、それを作品としたゲーテ。もちろん恋ばかりではなく、モーツアルトの野郎らを作詞したり、詩人、劇作家、小説家、自然科学者、政治家、法律家と多才な才能を発揮した。